

CHIHOMEN NEWS

WAKAYAMA 地域プロモーション

おでかけマップ・定住促進映像を自主制作
市への贈呈式が、NHKを含む7メディアで報道



アイデア出しから一歩進んだ創生企画。
自分たちの頭で考えていく。

CHIHOMEN NEWS

若手職員の発案による地方創生への取り組みを大切に考える和歌山財務事務所では、**ちほめんのみに**によるミーティングを幾度も開催し、企画検討を重ねました。

関係機関との意見交換会といった、過去の事例を参考にする中、以下のような声があがりました。



“きっかけづくり”を与える企画も良いが、できれば**地域のニーズに具体的に応える企画**をやってみたい！

自分たちが地方創生の役に立った**実感が湧くような、なにかカタチに残る成果物**を作る企画に参画したい！



「意見交換会でのアイデア出し等の**既存企画の枠組みから、一歩進んだ企画を**」
若手だけの話し合いを重ねるほどに、**メンバーへ強い主体性**が生まれました。

このような中、昨年度の当所の創生企画に参画いただいた紀の川市地域創生課の峰田氏より、**地域のお母さん方を招いて市の魅力を発掘する「きのかわママワークショップ」**へ、ちほめ人を招待いただく機会がありました。

ここでメンバーは、単にワークショップに参加するだけではなく、**ママさん方が考える地域の魅力や課題を聞き出せる絶好の機会**と捉え、色々なお話に耳を傾けました。

そこで出た意見が、「巨大遊具が整備された公園が欲しいな」「支援センターは午前中で閉まるが、乳幼児とお弁当を食べることができるような市内の公園の場所が分からない」など。



お金がかかる公園整備といった要望は、市の方にお任せするしかないけれど…

公園の情報整理であれば、若手職員の私たちでも、お手伝いができるのでは？

左のように考えたメンバーは、ちほめん全員の同意を得た上で市の峰田氏へ、**乳幼児を育てるママさん向けの公園を整理したマップの共同制作**を打診。

ありがたいことにその場で快諾いただき、**乳幼児を育てるママさん方にとって、日々を暮らす上でもう一つ大切な要素である、病院や歯科医院といった、安心につながる医療施設の情報も合わせてマップへ掲載**することで、方向性が固まりました。

各メンバーは業務の合間を縫って現地を調査。
出向くほどに、5町が合併した市の土地柄や、
紀の川河川敷や山間部にスポーツ公園が充実し
ているといった、整備の特性が見えてきました。

それと同時に、ママさん方の視線から見たと
きに、魅力的な公園が多数あることも分かり、
「ママさんたちに教えたくな」という気持ちが
芽生えてきたメンバー。



幾度も現地に出向き
自分の頭で考える

地域を想う力をもとに、マップ原案の作成はスピーディに進められました。

地域の声をいかに反映するか。
自己満足ではない、真に活用されるマップへ。

CHIHOMEN
NEWS

マップ原案を持って、ちほめんと市の地域創生課で開いた検討会議。

市の峰田さんからは、表面が公園、裏面が医療施設という
情報配置の方向性に賛同いただくとともに、市の公式ロゴ
「住いも甘いも紀の川市」やキャラクターであるぶるぶる娘
のデータの提供を受けたほか、我々では把握できなかった公
園について教示いただいたのですが、やはり「デザインも含
め、地元のママさん方の意見が何より最優先」ということにな
り、第二回のきのかわママワークショップで広く意見聴取
をすることになりました。



市の提供素材

ワークショップ当日、多くのママさんからマップ作成に歓迎の声をいただいた一方で「本当に“手に取ろうかな”という観点から見たときに、デザイン的な部分と、公園のセレクションが、これでは甘すぎる」という、厳しい指摘も多数いただきました。

(デザイン面)

- ・全体的に情報量を詰め込みすぎ。
書きぶりも役所の資料のように硬い。
- ・中央の地図を含め、もう少し色身を工夫して、イラスト風にした方が目を引く。
- ・もう少し余白があるほうが見やすい。

(公園選定面)

- ・市民は皆車で移動するので、駐車場の有無が載っているのは良い。
- ・乳幼児の世話をする身からは、水道や自動販売機などの有無情報がほしい。
- ・数を絞って、私たちママが行きたくなる魅力を分かりやすく伝えてほしい。



メンバー

きのかわママワークショップで
ママさん方の生の意見を聴取



メンバー

アイデアを出していただいたママさん方の想いに応えるべく、デザインのノウハウに長けた、地方創生関係の学部出身のメンバーが立ち上がります。

イラストレーターが使用できるマイパソコンを持参し、業務の合間を見て、PowerPointでは到底作成できない、本格的なマップのレイアウト作成に着手。



創生関係学部
出身メンバー

他メンバーも、各々の強みをいかした役割を持ったチームを結成。

(メインデザインチーム)

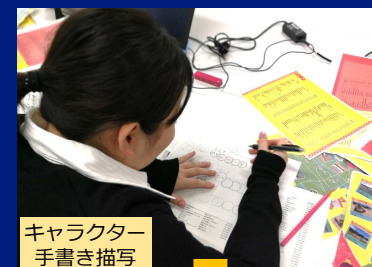
- ・イラストレーター使用によるレイアウト構成
- ・色彩分野の書籍を使用したカラーリング

(データサポートチーム)

- ・20箇所超に上る候補公園を全て撮影し、駐車場数等をデータベース化
- ・要所のタイミングで、掲載公園やデザイン案へ意見出し

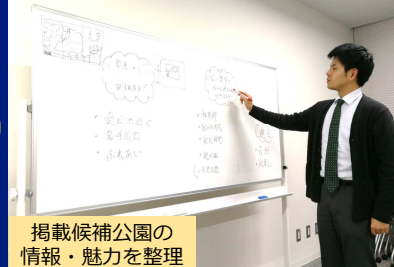


週に2回集まってマップ作成作業
(2019年1月中旬～2月下旬)



キャラクター
手書き描写

TEAM
CHIHOMEN
WAKAYAMA



掲載候補公園の
情報・魅力を整理



イラストレーターで
デジタル描写





二本目は「雄大な紀の川で育てよう！」

一本目とは一転、“ちほめんジュニア”に任命された、撮影クルーの子供であるみゆちゃん（小3）が登場して、河川敷やサイクリングロード、公園でのびのびと遊ぶ姿を収録。

都会で住む方からすると羨ましくなってしまうような、スケールの大きな自然、でもしっかりと管理されて安全な環境で育てられる紀の川市の良さを、短い尺でありながらリズミカルに映像化。

公園は、おでかけマップでも紹介した、山手にある、知る人ぞ知る小さな公園で、ラストの映像で登場する紀の川のダイナミックな絶景は、実際に公園の東屋から眺めることが可能。

このように、自然満載の子育て環境を仮想体験できる映像となっています。



晴れて完成を迎えた2月末。
市の御好意で、林副市長への盛大な贈呈式を開催いただきました。



メンバー代表から「こどもとおでかけマップ」、「定住プロモーション映像」のDVDパッケージを林副市長へ贈呈。

続いて定住プロモーション映像の試写会が開催され、その後、私たちを温かく見守ってくれた所長・総務課長を交えて、林副市長との懇談が行われました。

林副市長からは「若者の定住には市も苦労しており、市の魅力をどうPRするかが課題で、ありがたい。立派な映像とマップを作成いただき、紀の川市の良さを改めて実感した。ぜひ活用していきたい」という嬉しい言葉をいただきました。

今後、おでかけマップは市役所や子育て支援センターへ備え置きされるほか、定住プロモーション映像は、市役所1階エントランスホールのデジタルサイネージ（電子看板）において放映されるほか、市公式YouTube・Facebookへアップされ、広く全国へプロモーションしていくなど、いずれの制作物も、末永く有効に活用いただけることとなっています。





YouTube



常にテレビカメラが回り、頻りにフラッシュが焚かれ、贈呈式後には長時間に渡って報道各社の取材や写真撮影に応じました。

私たちはまだ取材に慣れておらず、ぎこちなく振る舞う場面もありましたが、後ほどテレビニュースや新聞記事で丁寧に取り上げていただいている状況を目にして、メンバー一同とてもありがたく、貴重な経験だったと実感しています。

贈呈式の様子は、地元主要7メディア（NHK・テレビ和歌山・読売新聞・朝日新聞・産経新聞・わかやま新報など）から取材されました。



今回の企画は、当初考えていた「子育てママ支援・定住促進支援」の枠を超えて、その先を目指しました。

それは、市外からの移住策だけでなく、何より今住んでいる住民の方々に、地元の良さを再確認してもらい、誇りに思い、地域を愛し、いつまでも住み続けていただくこと。そんな新たな切り口での地方創生に、懸命にチャレンジした企画です。

「こんないい公園が身近にあったなんて、知らなかった」
「あらためて紀ノ川って、こんなに綺麗だったんですね」

地元のママさんや、市の地域創生課の方々、そして林副市長からかけていただいた、これらの言葉。メンバーの笑顔が一番輝いた瞬間です。



紀の川市の皆さま、本当にありがとうございました。

「子育てママ支援・定住促進プロジェクト」

Member 西尾（リーダー）・大谷・久富・浦山
Cast みゆちゃん（ちほめんジュニア）
Project Director 西津 Co-Director 峰田氏（紀の川市）

あなたの地域でも地方創生に関するご要望がございましたら下記の宛先までお問い合わせください。
近畿財務局・総務課企画係
06-6949-6390
kinzaikikaku@kk.lfb-mof.go.jp